



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二十三号〜

穀雨

四月二十日

お屋根桜

今年の桜は早足でした。それでも花見には出かけずにはいられません。外宮近くの旧豊宮崎文庫とよみやざきに、お屋根桜を見に行きました。

旧豊宮崎文庫は、かつての外宮神職の子弟の学問所で、図書館や講堂などがありました。今では建物は残りませんが、伊勢市指定の天然記念物・お屋根桜が根を下ろし、桜の開花時期に合わせ特別公開を行っているのです。

豊宮崎文庫の創設時に移植されたというお屋根桜は現在、二本あります。この花名は、屋根に生えた桜に由来します。どこの屋根かという点、外宮神職の出口延佳のぶよしの屋敷、また外宮の正殿しょうでんの萱葺屋根かやぶきともいわれています。伊勢市教育委員会によると、どちらも考えられる説で、正殿の場合は、式年遷宮しきねんせんぐうを終えた古殿こでんではないかとのことでした。江戸時代は現在とは異なり、遷宮後も古い社殿が解体されることなく、建っていた様子が絵図などにも描かれています。それならば、古殿の屋根で育った桜をいよいよ新しく建て替えるときに、神職がいただき、それを移植した、そのため「お屋根」と丁寧語が使われているのも合点がいきます。

樹木医によれば、お屋根桜は、ヤマザクラとオオシマザクラを掛け合わせた栽培品種で、咲き始めは白色であるのに、ピンク色に変る、色変わりが大きな特徴ということでした。私が拝見したときは、すでにピンク色でしたが、一週間前は白色だったそうです。日々、変わりゆく花の色を楽しめるのです。

昭和初期までは、「文庫の桜」として、外宮の緑の森の近くにある桜の園を入々は楽しみにしていたとか。古の面影を色濃く残す土塀に囲まれた「文庫の桜」の花見。伊勢ならではの桜を堪能しました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ おかげ横丁端午の節句

5月5日は、「端午の節句」です。おかげ横丁では、男子の健やかな成長や立身出世を願い、鯉のぼりを立て、古きよき日本の伝統文化を大切に、「端午の節句」をお祝いします。

と き／4月28日(土)～5月6日(日)
10:00～17:30 (催しによって異なる)

ところ／おかげ横丁一帯

● ときわまんさく差し上げます

「ときわまんさく」を皆様に大切に育てていただこうと、約200株の苗を無料配布いたします。

「ときわまんさく」は、伊勢神宮をはじめ、熊本県の小岱山^{しょうたいさん}、静岡県湖西市神座地区の3か所に見られる貴重な樹木です。

と き／5月4日(祝) 10:00～ なくなり次第終了

ところ／伊勢路栽苑

五十鈴塾

○ 楽しい俳句

わずか17文字にいろんなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らずに5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地は持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えます。

と き／4月25日(水) 10:00～12:30

講師／石井 いさお (俳句協会三重県支部長・煌星俳句会主宰)

参加費／一般2,000円 会員1,500円

集合／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

しんめ
神馬

神宮の神馬といえば、もとは皇室ゆかりの御料馬。御紋入りの衣をまとい、厳かに進む神馬の出立ちを、水餅をまぶした道明寺で表しました。

ふじなみ
藤波

穏やかな春風に、さざ波のように揺れる藤。薄紫色のきんとんで幾筋にも咲く藤の姿を写しました。

みずも
水藻

五十鈴川の岸辺から川面へ向け目を凝らすと、日差しに照らされて、きらきらと水藻が揺らめく様子が見えます。その光景を葛寒天と羊羹で、透き通るように表現しました。